

J E C の源流と歴史的遺産 6

16, 17世紀の信条とJ E C

一宮基督教研究所 安黒務

16、17世紀における信条の出現とJ E C

今回は、「近世の四つの流れ」の中で会衆派ピューリタンからバプテスト派が生まれてくる経過をみました。今回は、宗教改革の発展過程の中で生み出されてきた「信条」の出現とJ E Cの関係を考えてみましょう。

プロテスタント教会の信条¹：プロテスタントとしてのJ E Cの自覚

信条の出現は宗教改革の特徴的現象であって、時代的に見れば、16世紀の宗教改革とそれに続く17世紀の正統主義の時期に生まれました。代表的な信条を教派別にみますと、**ルター派では**、ルターの大・小教理問答、アウグスブルク信仰告白、アウグスブルク信仰告白の弁証、シュマルカルデン条項、和協信条；**改革派では**、ジュネーブ信仰問答、チューリッヒ一致信条、フランス信条、スコットランド信条、ベルギー信条、第二スイス信条、ハイデルベルク信仰問答、ウエストミンスター信仰告白、ウエストミンスター大・小教理問答；**英国教会では**、39箇条(聖公会大綱)；**バプテスト派では**、スタンダード信仰告白、第二ロンドン信仰告白；**会衆派では**、サヴォイ宣言などがあります。

当時の教会は、さきに記述してきました**共同信条**、**教父たちのよき実**、**中世神学のよき部分**、そして何よりも**聖書そのもの**を綿密に調べながら作成にあたりました。これらの信条の邦訳は、『信条集』前編・後編と、『バプテストの信仰告白』等に収録されていますので、読まれますと必ず“**プロテスタントの一員としてのJ E C**”の自覚を養う上で大きな益を受けられます。教職者や信徒リーダーの方には少なくとも上記の一冊は読んでいただきたいと思います。

信条の意味・意義：プロテスタントとしてのJ E Cの信仰の根源

これらの諸信条は一部の教派の歴史的遺産という以上に、“**プロテスタントとしての信仰の根源**”に深く根ざしたものであることが分かります。第一に、プロテスタントとは、ルターの生涯に見ますように「**わたしはここに立つ**」とはっきり自分の信仰を告白し表明する者です。信条はまさにその**信仰の内容を定義しているもの**です。キリスト教は決して漠然としたあいまいな感情や満足感や悟りの境地というようなものではありません。第二に、歴史の中には、経験を過度に重視したり、聖書のあるテキストだけを一方的に強調するいわゆる“**一節主義**”に走ったりして主観主義に陥った例が多くあります。信条は、自分自身の、そして私たちの教会の信仰と生活が**共同の教会**

の信仰と生活に立っているかどうかをチェックするための規準、正統と異端とを区別するための規範です。第三に、信条は**キリスト教宣教と教育の素材**を提供するものです。宣教には人々に伝える客観的なメッセージと、入会に際して何が要求され、何を与えるかを明示することが必要です。教育においても、教会は教えるべき真理と教会の所信をはっきりと持っていなければなりません。第四に、信条は**教会の一致と協力をはかる上での基盤**です。教会が一致協力のための努力をなす際に、いわゆる状況主義ではだめで、つねに真理における一致(ヨハネ17章)が基本とならなければなりません。

JECの私たちは歴史的な**信条を読み、それに養われることを通して**、プロテスタントの信仰の根源に触れ、公同の教会の信仰と生活に立っていることを確認し、宣教と教育の素材という歴史的遺産を継承し、教理的基盤を識別しつつ超教派の教会協力を推進していくことが大切です。

バプテスト派の特質を宿す群れとしてのJEC

ここで、JECのルーツとしての「**バプテスト派の信条の特色**」について述べたいと思います。「はじめに信条ありき」で、信条を承認する信仰者のみを受け入れる信条主義の教会のあり方に対し、信仰者個人の主体性を重んじるバプテスト派では「**集まった信仰者によって**」信条や教会が形成されます。聖書全体を詳細に網羅した信条によって表現しようとする「信条主義」に対して、バプテスト派は聖書自身で十全なので、主要なポイントだけをあげる「**簡易信条主義**」の立場をとっています。信条は永続的なものではなく、自由に信条を「**作成したり、変更したり**」することができます。そしてかなり広い立場の枠を作り、その中で個人の自由が許されています。

信仰告白における「**個人の主体性**」が強調されています。「教会の信仰告白」よりも「個人の信仰告白」が、また「教派の信仰告白」よりも「個々の教会の信仰告白」が優先されます。「**個人の自由、地方教会の独立自治を拘束する信条を認めません。**」

これは、カトリックを背景とします英国教会(聖公会)の「組織による上からの支配」、また先行した宗教改革運動であるルター派や改革派の「詳細に網羅された信条による束縛」を嫌ったバプテスト派の動きを読み取ることができます。バプテスト派は「**個人の主体性**」をきわめて重視し、それに価値を置く群れです。JECには「簡易信条」があり、それは宣教団体から継承したものです。このように信条のもつ意味や意義、そして私たちのルーツとしてのバプテスト派の特質を学びますと、JECとはまさしく「**バプテスト派の特質**」を宿す群れであると確信させられます。もちろん、JECの教会観では「**独立相互依存**」がうたっており、個々の教会の「**主体性の尊重**」とともに、JEC全体としての「**一致と調和**」が強調されており、この二つの要

素の麗しいバランスこそがJECの特色であると思います。

-
- i 宇田進「福音主義キリスト教と福音派」いのちのことば社、pp.97-103
 - ii 丸山忠孝「信条学」講義ノート、pp.50-51

[一宮基督教研究所インフォメーション]

「一宮基督教研究所」では、多くの神学図書を継続的に購入し、ライフワークとして“**JECやKBIの流れ**”について神学研究活動に取り組んでいます。今回の連載を機会に幾人かの方や教会から支援献金等をいただくようになりました。さらに、**この小さな働きを理解し、支援して下さる方や教会がありましたら**下記の郵便振替口座をご利用ください。よろしくお願ひします。

郵便振替口座「一宮基督教研究所：01110-0-15025」